

# 感 謝

岡山県

岡山薫風道場

小学6年 深井大介

一年前、ぼくの剣道は変わりました。それは上手に技が出せるようになったとか、試合で勝てるようになったということではありません。今までの剣道に、周りへの感謝という大切な心構えが加わったのです。

それまでぼくは、自分から剣道をやりたいと言いだしたこともあって、けい古を休むと親に怒られるからと休まずにいました。そして、ただ先生に言われたことをやっていけば、結果はすぐについてくると思っていました。しかし、試合では、「勝ちたい、勝たないといけない」と思うと体が動かず、結果がついてきません。ぼくはくやしくてたまりませんでした。やはり結果が出なかった試合の後のけい古の日、どうしても行きたくなくなり、近所の公園へにげ出しました。もうどうにでもなれと思って、はかまのままでジャングルジムに登りました。こんな思いをして剣道なんかする意味があるのかと思うとなみだが出てきて、剣道がきらいになりました。

数日後、もう辞めたいと悩みながら道場に行きました。先生の前に行くとなんとも言えずだまっていたぼくに、先生は「この先、剣道以外でも思い通りにならないことはたくさんあるはず。それをどう乗り越えるかが大切だよ。それが成長につながるんだ。」と声をかけてくださいました。けい古を休んだことで心配をかけたはずの仲間も、またいっしょにがんばろうとはげましてくれました。なみだがこぼれそうになって顔を上げると、道場訓としていつも当たり前に見ていた「剣は心なり」という言葉が目に入りました。「剣道は支えられて出来ている、周りへの感謝を忘れてはいけない。」と以前教わったその言葉の意味を改めて考えました。試合で体が動かなかったのは、勝つという結果ばかりを求めていたからではないだろうかと思いました。日々のけい古に真剣に取り組むことを忘れ、自分からやるという心が足りなかったことに気付きました。自分にだけ目を向けて、周りへの感謝を表すことが出来ていませんでした。そう思ったぼくの心からは、道場の先生へあいさつをするまでのもやもやした気持ちはすっかり消えて、もう一度剣道がんばろうという強い気持ちがわいてきたのです。「またがんばらせてください。」と自分の気持ちを伝えたぼくを、先生は笑顔で受け入れてくださいました。

それからは、自分から進んでけい古に行き、母任せだったけい古の準備は全て自分で行うようになりました。そして、ぼくは自分の思いを言葉で伝えるのは苦手ですが、剣道でも日常生活でも「ありがとう」という言葉で、たくさんの感謝の気持ちを伝えられるようになりました。

剣道について調べると、「けい古を続けることで心身をたんれんし、人間形成を目指す武道」とあります。一年前の経験で、新たなぼくへと人間形成の道を一步進んだと感じています。ぼくの歩んでいく道は、これからもでこぼこや坂があるだろうけれど、それを自分なりのスピードで進んでいきたいと思います。

もう一つこの経験から得られたものがあります。それは、剣道の良さを世界に広めたいという夢です。世界にはたくさんの方がいて困ったり苦しんだりしています。今回ぼくが経験したように、剣道には、そんな人の心を動かし、希望を持たせる力があります。ぼくが剣道を通じて成長し大人になった時、その力を伝え、世界の方がそれぞれの問題に立ち向かっていけるよう支えていきたいです。

支えてもらった感謝の気持ちを、ぼくが夢を実現することによって少しずつ、お世話になった方々に返していきます。